

みんなの健康ラジオ

『痔かな？お尻が何か変だ(II)』

(2025年10月2日放送)

横浜外科医会

医療法人恵仁会 松島病院

松島 誠

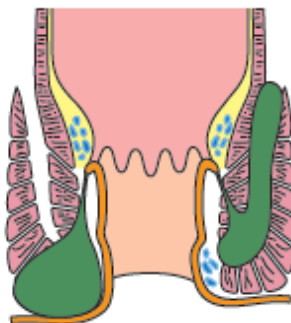
本日は痔瘻についてご説明します。前回の痔核（いぼ痔）や裂肛（きれじ）と異なり、痔瘻は肛門の正常な構造である肛門腺に便の中の細菌が侵入し発症する病気です。積極的に予防することは困難な疾患で、日を追って病状が悪くなるものが多く、早めに受診することが大切です。その症状は多くの場合、突然に排便と関係ない肛門周囲の痛みを伴った腫れや重苦しさが生じ、徐々にひどくなってきます。時には熱が出たりすることもあります。膿の溜まった袋状のものを膿瘍と呼びます。

排便しても痛みが強くなることはあまりありません。この膿瘍内の膿の量が増え周囲組織の弱い部分（これを肛門または直腸周囲間隙といいます）に拡大進展していきますので、まず何より膿瘍を切開排膿して病気の進展を止めることが最優先となります。

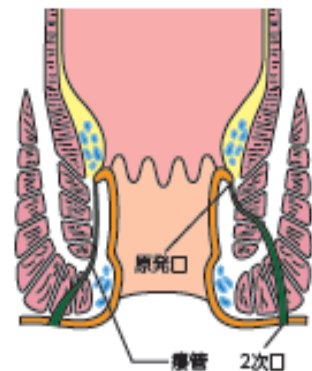
切開し炎症が収まると痔瘻組織を硬い筋状に触れることはありますが、痛み等の症状は落ち着きます。その後の治療は痔瘻の状態や程度を判断し、更に痔瘻に関連するクローン病などの検査を行った後に、根治手術を行って治療します。

痔瘻は痔核・裂肛などと異なり膿瘍形成を繰り返しながら肛門の正常な構造を破壊し、稀ではありますが癌化し痔瘻癌となることがあるので、できるだけ早く確実な治療を行うことが大切です。

肛門周囲
膿瘍



痔瘻



最後に最も大切なことを申し上げます。

肛門の3つの良性疾患についてお話しましたが、重要なことは大腸がんや、難病指定されているクローン病や潰瘍性大腸炎等の大腸・直腸の重要な病気が内視鏡検査等で確実に除外されていることが重要です。

「痔だと思っていたら、違う病気だった！」ということが無いように、早めに医師に相談なさってください。